

岡崎市リサイクル施設配置基本計画 資料編

令和4年3月

岡 崎 市

< 目 次 >

資料 1 岡崎市新リサイクル施設整備事業に係る技術調査 依頼資料
(事業概要書、提出書類様式)

資料 2 岡崎市新リサイクル施設整備事業に係る技術調査 回答資料集計

資料 1 岡崎市新リサイクル施設整備事業に係る技術調査
事業概要書

岡崎市新リサイクル施設整備事業に係る技術調査

事業概要書

令和3年10月

岡崎市

目次

1	事業概要書の位置づけ	1
2	調査概要	1
	（1）一般概要	1
	（2）建設場所（事業敷地）	1
	（3）整備予定施設	1
	（4）立地条件	2
	（5）ユーティリティ条件	2
	（6）予定工期	2
3	新リサイクル施設（不燃ごみ処理施設）の概要仕様書	3
	（1）年間処理量及び施設規模	3
	（2）基本処理フロー	3
	（3）計画ごみ質（参考）	5
	（4）受入貯留容量（参考）	5
	（5）搬出物貯留容量（参考）	5
4	リサイクル施設（資源ごみ処理施設）の概要仕様書	6
	（1）年間処理量及び施設規模	6
	（2）基本処理フロー	6
	（3）計画ごみ質（参考）	15
	（4）受入ヤード容量（参考）	16
	（5）搬出物ヤード容量（参考）	17
5	車両基地、管理棟等の概要仕様書	18
	（1）車両基地	18
	（2）管理棟	18
	（3）計量棟	18
	（4）構内駐車場	18
6	公害防止基準値	19
	（1）騒音基準値	19
	（2）振動基準値	19
	（3）悪臭基準値	19
7	全体配置計画及び動線計画の基本的な考え方	20
	（1）全体配置計画の基本的な考え方	20
	（2）動線計画の基本的な考え方	20
8	その他	20

1 事業概要書の位置づけ

本事業概要書は、岡崎市（以下「本市」という。）が建設を予定している新リサイクル施設の整備事業（以下「本事業」という。）に係る技術調査に適用します。なお、本事業概要書の内容は現段階における計画であり、今後の事業進捗状況により変更となる場合があります。

2 調査概要

（1）一般概要

本市では、複数の施設で一般廃棄物を処分しており、過去に休止した施設を含め、多くの施設を管理しています。

不燃ごみについては、廃棄物再生利用施設（リサイクルプラザ）のリサイクル棟において処理をしていましたが、令和元年6月の火災事故によって使用できなくなり、現在は才栗町の廃棄物再生利用施設（資源化施設）の簡易テント内にベルトコンベヤを置き、手選別を行っています。

さらに、廃棄物再生利用施設（リサイクルプラザ）敷地内の既存施設（旧焼却施設、リサイクル棟、管理棟、車両基地、ガラス工房など）は、老朽化が進行しており、跡地利用を検討する必要があります。

こうした背景のもと、本市では、新リサイクル施設を廃棄物再生利用施設（リサイクルプラザ）の敷地内に整備する予定です。

本調査は、新リサイクル施設配置基本計画を策定するに当たり、施設配置計画や概算事業費等について、貴社の技術や実績などに基づいて調査を依頼するものです。

（2）建設場所（事業敷地）

建設場所は、廃棄物再生利用施設（リサイクルプラザ）の敷地内とします（添付資料1「事業敷地図」参照）。

（3）整備予定施設

事業敷地内に整備を予定する施設は、次のとおりです。

新リサイクル施設（不燃ごみ処理施設、資源ごみ処理施設）

合棟又は別棟については、貴社の提案によります。

車両基地（車庫棟及び洗車場）

管理棟

また、上記 ～ の施設を配置した上で、敷地配置動線に余裕がある場合には、以下の施設も配置することを検討しています。

剪定枝処理施設

生ごみ処理施設

(4) 立地条件

地形、土質等

添付資料2「地質参考資料」を参照して下さい。

都市計画事項

- ・用途地域 : 市街化調整区域
- ・防火地区 : なし
- ・高度区域 : なし
- ・建ぺい率 : 60%
- ・容積率 : 200%
- ・都市施設 : ごみ焼却場

(5) ユーティリティ条件

電気

受電電圧 : 6,600V (高圧受電)

用水

プラント用水 : 上水

生活用水 : 上水

燃料

燃料を必要とする場合は、灯油又はLPガスとする。

排水

プラント排水は排水処理設備、生活排水は合併処理浄化槽で処理すること。

(6) 予定工期

- ・既存施設解体工事 : 令和6年4月～令和8年3月
- ・新リサイクル施設建設工事 : 令和6年4月～令和8年9月

3 新リサイクル施設（不燃ごみ処理施設）の概要仕様書

（1）年間処理量及び施設規模

不燃ごみ処理施設における年間処理量及び施設規模は、以下のとおりとします。

表 1 不燃ごみ処理施設における年間処理量及び施設規模

処理対象品目	年間処理量（t/年）	施設規模（t/日）
不燃ごみ・不燃性粗大ごみ	5,024	30.1

（2）基本処理フロー

不燃ごみの処理フローは、以下の2案を想定しています。基本処理フローを図1及び図2に示します。

ケース1：手選別

ケース2：前処理＋機械選別

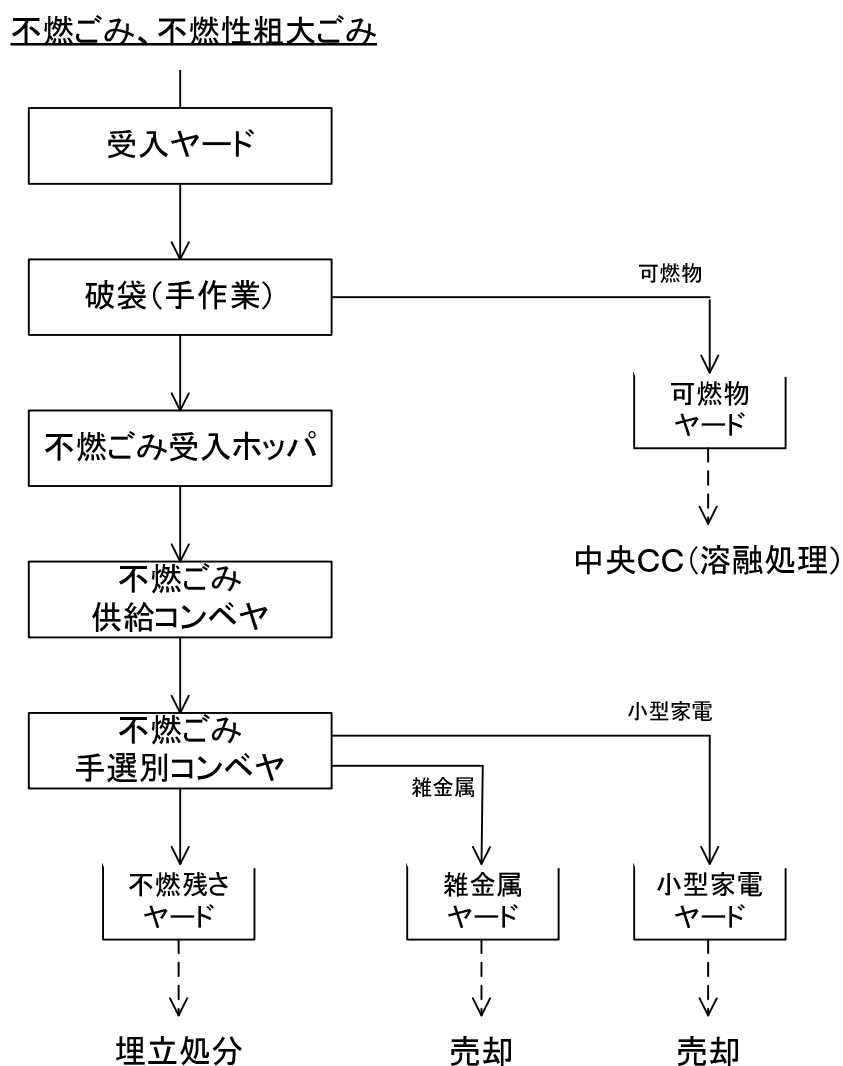


図 1 不燃ごみ・不燃性粗大ごみの基本処理フロー（ケース1：手選別）

不燃ごみ、不燃性粗大ごみ

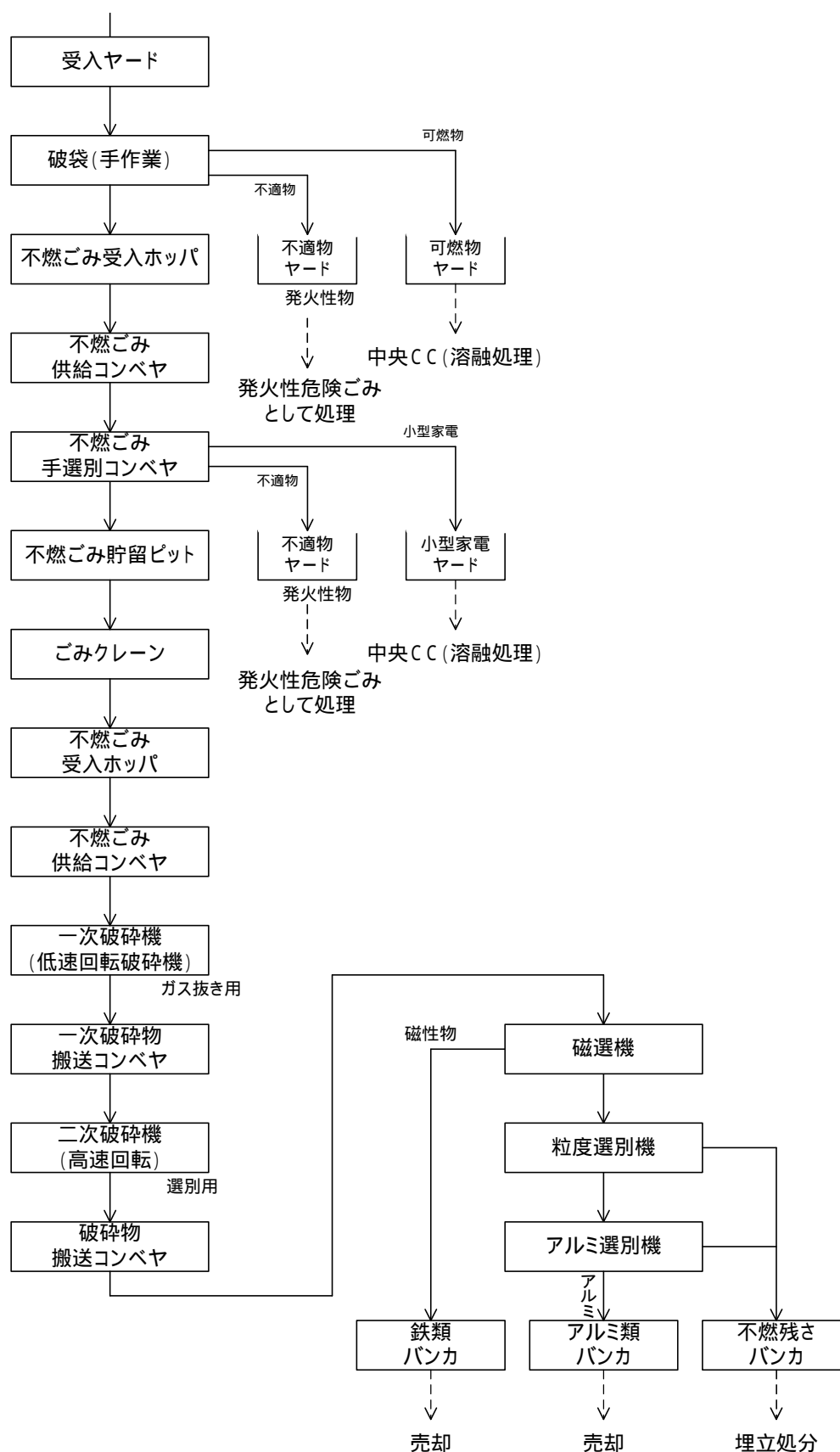


図 2 不燃ごみ・不燃性粗大ごみの基本処理フロー（ケース 2：前処理 + 機械選別）

(3) 計画ごみ質（参考）

種類別組成

参考として、不燃ごみの計画ごみ質を表 2 及び表 3 に示します。なお、本市の不燃ごみ処理については、令和元年 6 月までは機械選別方式、令和元年 6 月以降は手選別方式を採用しているため、それぞれの方式の搬出量実績に基づいて、2 パターンの計画ごみ質を示します。

表 2 不燃ごみの計画ごみ質（手選別方式）（参考）

	雑金属	小型家電	可燃残さ	不燃残さ	合計
不燃ごみ	5.8%	10.4%	64.5%	19.3%	100.0%

表 3 不燃ごみの計画ごみ質（機械選別方式）（参考）

	雑金属 (鉄・アルミ)	小型家電	可燃残さ	不燃残さ	合計
不燃ごみ	8.5%	6.1%	51.0%	34.4%	100.0%

単位体積重量

不燃ごみ及び不燃性粗大ごみの単位体積重量は、0.050t/m³とします。

(4) 受入貯留容量（参考）

ケース 1（手選別）の場合

受入ヤードの貯留容量は 2 日分とします。

ケース 2（前処理 + 機械選別）の場合

受入ヤードの貯留容量は 1 日分、貯留ピットの貯留容量は 2 日分とします。

(5) 搬出物貯留容量（参考）

搬出物の貯留日数はそれぞれ以下のとおりとします。なお、搬出物の単位体積重量は、貴社の経験に基づいて設定願います。

表 4 搬出物の貯留日数（参考）

主な品目	貯留日数	参考（現状の搬出頻度）
可燃物	1 日分	7～8 回 / 日
不燃残さ	1 日分	1 回 / 日
雑金属	5 日分	4～8 回 / 月
小型家電	5 日分	4 回 / 月

4 リサイクル施設（資源ごみ処理施設）の概要仕様書

（１）年間処理量及び施設規模

資源ごみ処理施設における年間処理量及び施設規模は、以下のとおりとします。

表 5 資源ごみ処理施設における年間処理量及び施設規模

処理対象品目	年間処理量（t/年）	施設規模（t/日）
空きびん・生きびん	1,380	6.3
ペットボトル	1,402	7.2
スプレー缶・ライター	72	0.4
空き缶	481	2.4
ミックスペーパー	1,239	5.7
紙製容器包装	867	4.0
その他紙	372	1.7
プラスチック資源	3,465	14.9
容器包装プラスチック	2,288	9.9
製品プラスチック	1,177	5.0

（２）基本処理フロー

それぞれの処理対象品目の処理フローを以下に示します。

空きびん・生きびん

空きびん・生きびんの処理方法は、以下の２案を想定しています。基本処理フローを図 3 及び図 4 に示します。

- 1) ケース 1：手選別（図 3 参照）
- 2) ケース 2：前処理＋機械選別（図 4 参照）

ペットボトル

ペットボトルの処理方法は、以下の２案を想定しています。基本処理フローを図 5 及び図 6 に示します。

- 1) ケース 1：前処理＋破砕（図 5 参照）
- 2) ケース 2：前処理＋ベール梱包（図 6 参照）

スプレー缶・ライター

スプレー缶・ライターの基本処理フローを図 7 に示します。

空き缶

空き缶の処理フローを図 8 に示します。

ミックスペーパー

ミックスペーパーの処理フローを図 9 に示します。

プラスチック資源

プラスチック資源の処理フローを図 10 に示します。

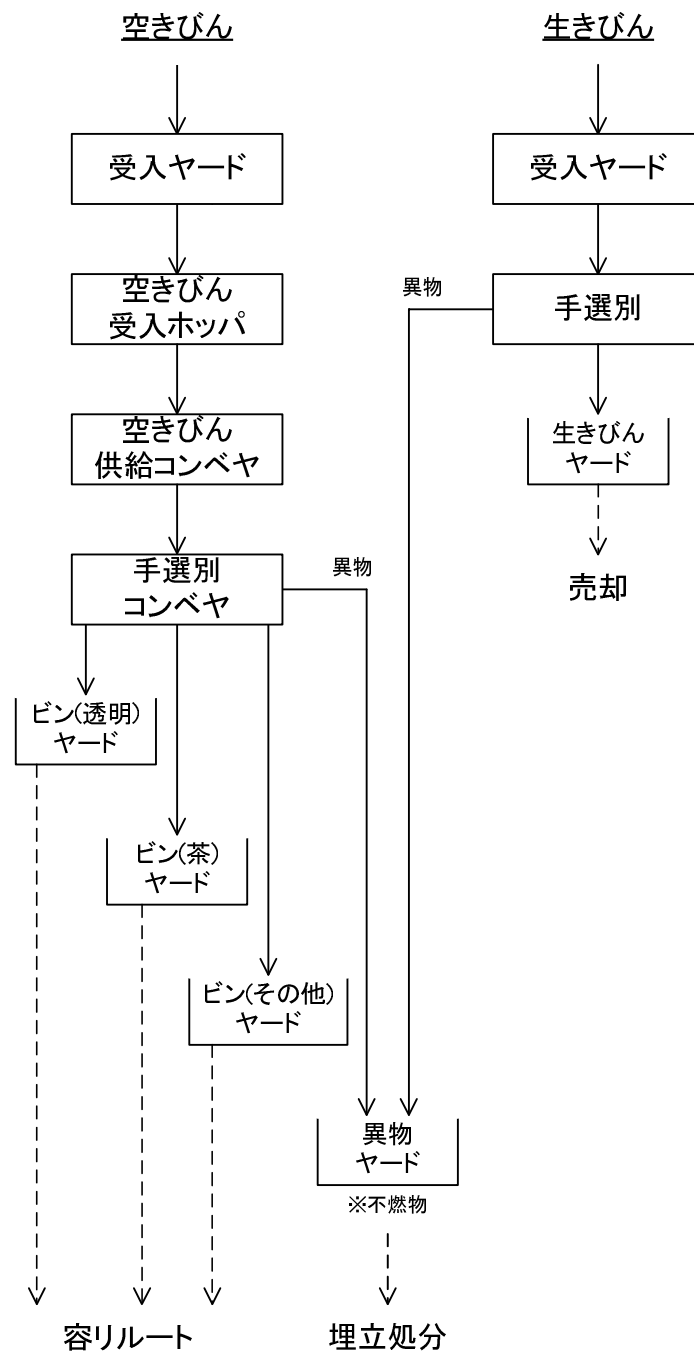


図 3 空きびん・生きびんの基本処理フロー（ケース 1：手選別）

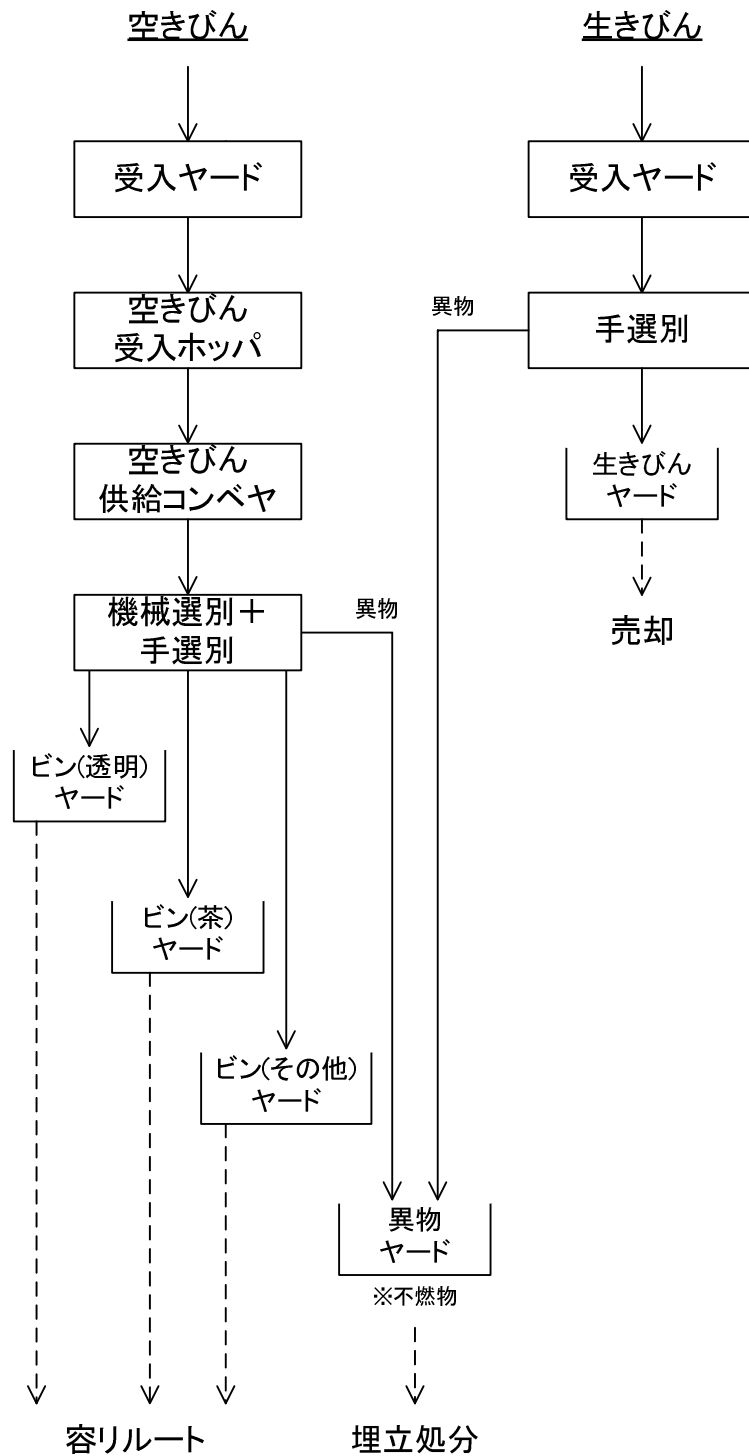


図 4 空きびん・生きびんの基本処理フロー（ケース 2：前処理＋機械選別）

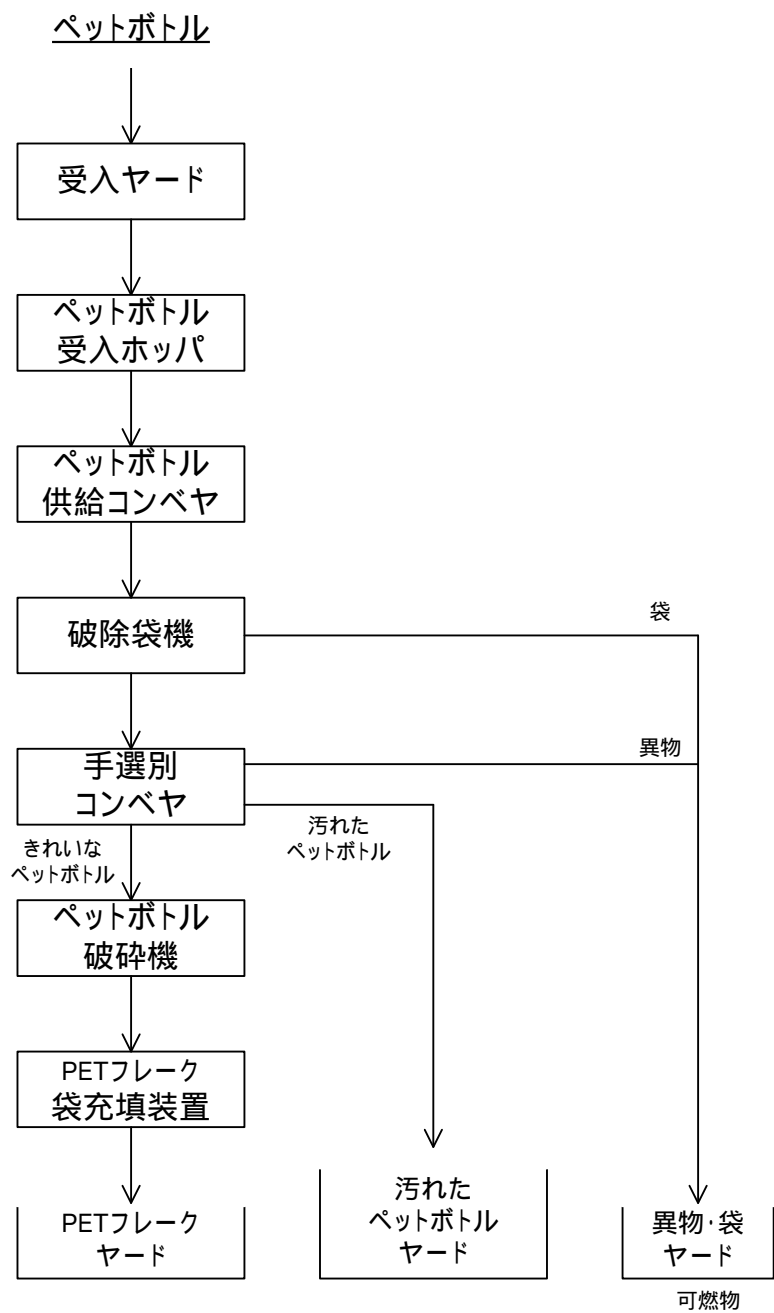


図 5 ペットボトルの基本処理フロー（ケース 1：前処理 + 破碎）

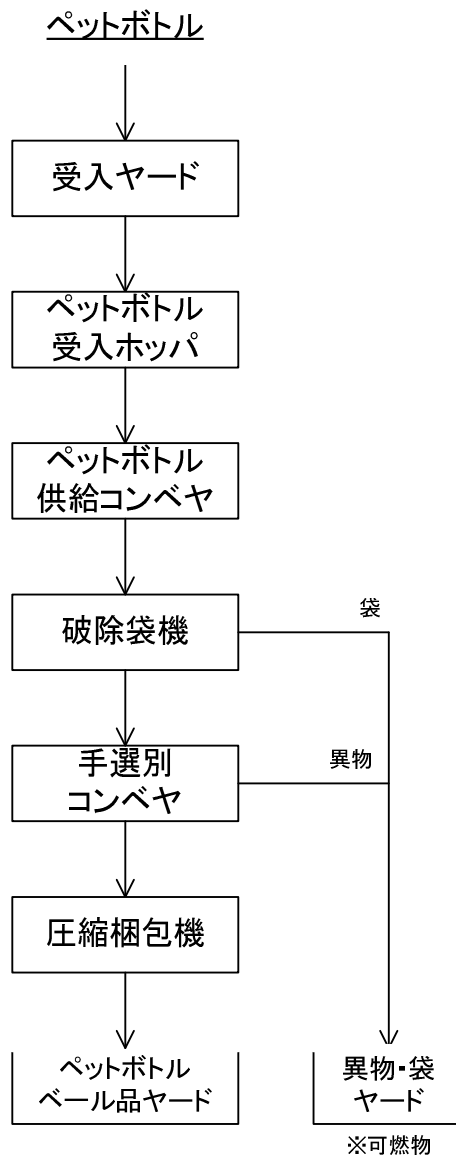


図 6 ペットボトルの基本処理フロー（ケース 2：前処理 + バール梱包）

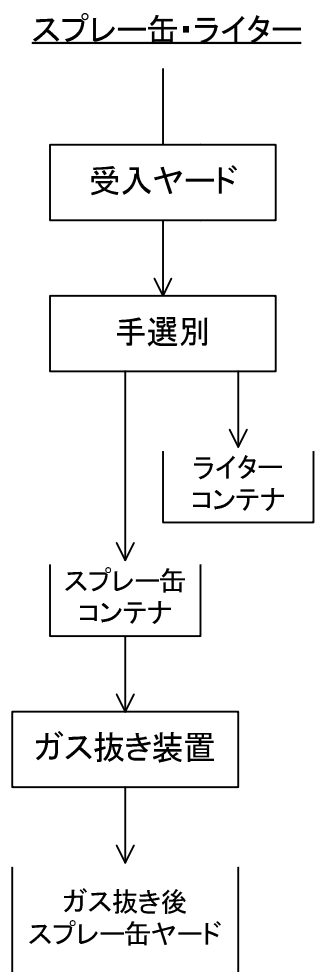


図 7 ライター・スプレー缶の基本処理フロー

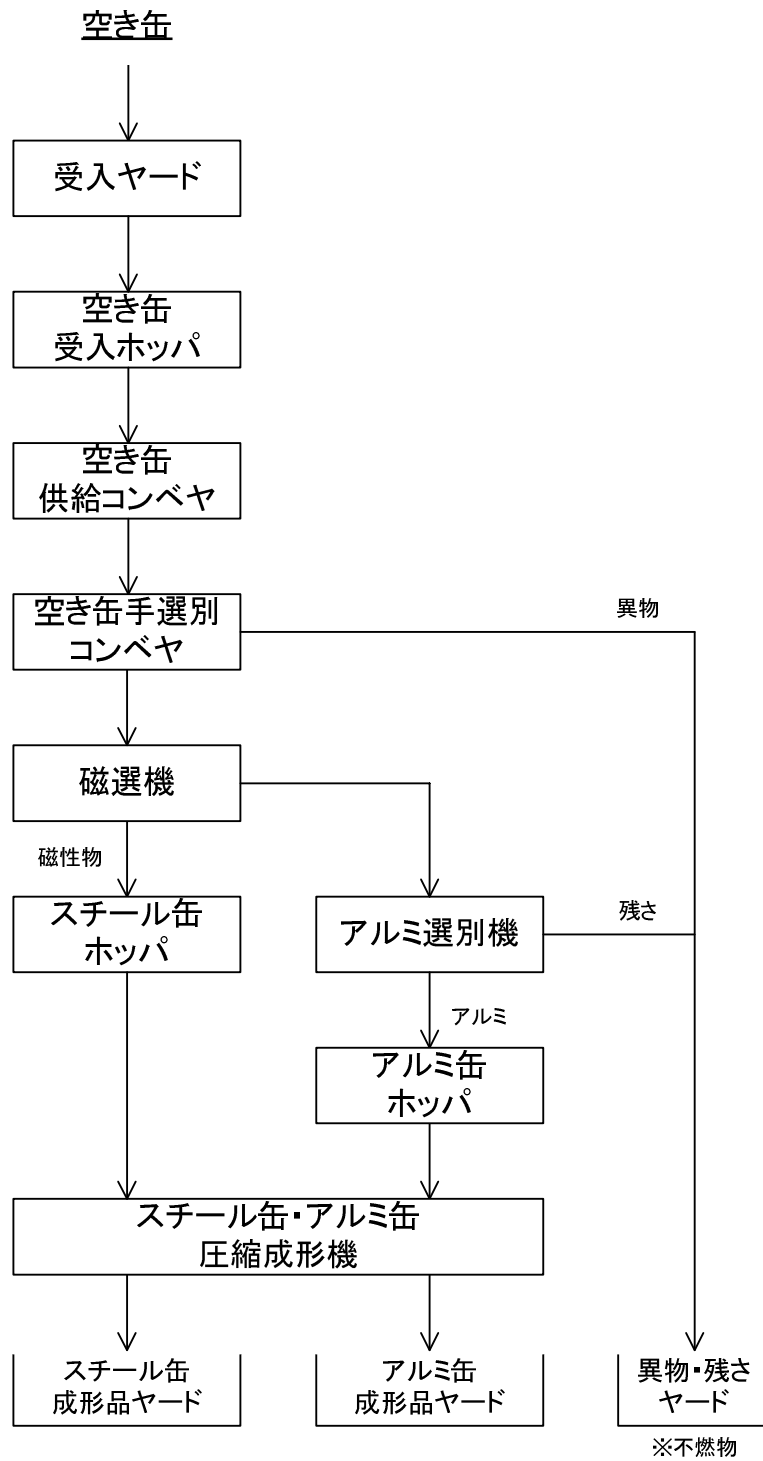


図 8 空き缶の基本処理フロー

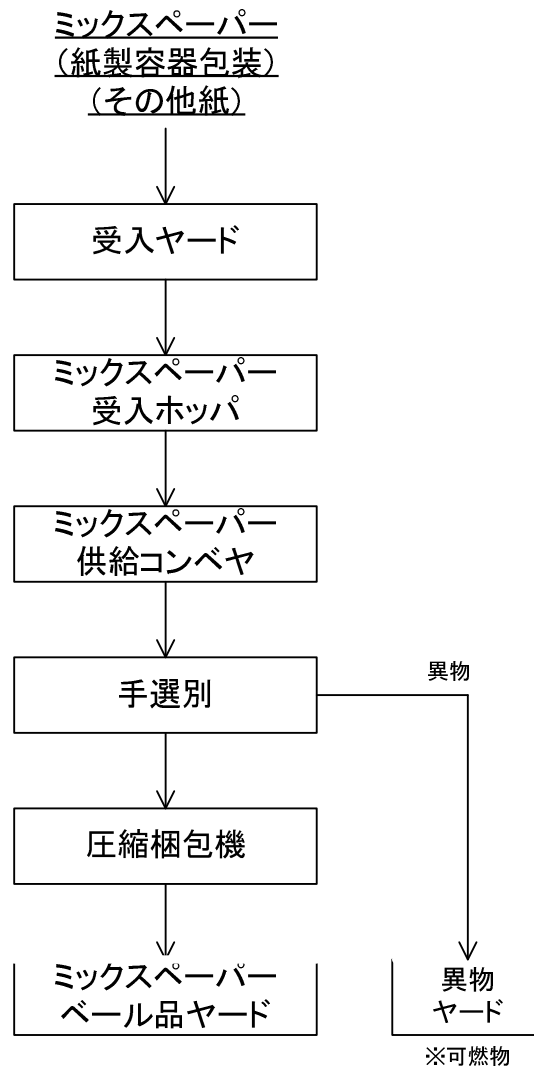


図 9 ミックスペーパーの基本処理フロー

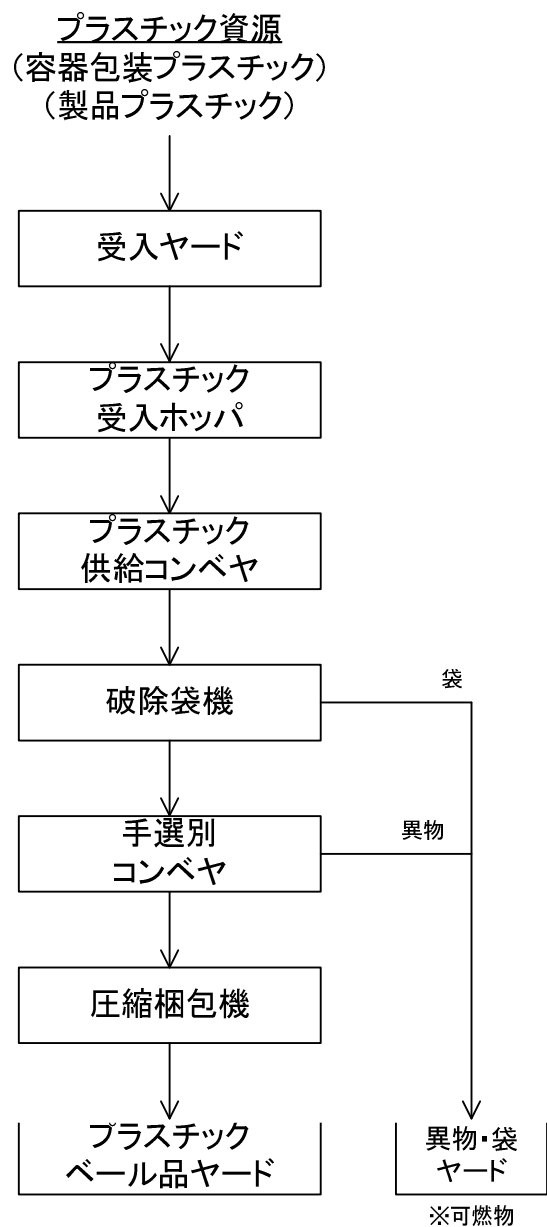


図 10 プラスチック資源の基本処理フロー

(3) 計画ごみ質（参考）

空きびん・生きびん

1) 種類別組成

参考として、過年度の搬出量実績に基づく種類別組成を表 6 に示します。

表 6 空きびん・生きびんの種類別組成（参考）

	白びん	茶びん	その他びん	合計
空きびん	47.8%	33.0%	19.2%	100.0%

	生きびん
生きびん	100.0%

2) 単位体積重量

単位体積重量は、0.120t/m³とします。

ペットボトル

1) 種類別組成

参考として、過年度の搬出量実績に基づく種類別組成を表 7 に示します。

表 7 ペットボトルの種類別組成（参考）

	ペットボトル
ペットボトル	100.0%

2) 単位体積重量

単位体積重量は、0.020t/m³とします。

スプレー缶・ライター

1) 種類別組成

参考として、過年度の搬出量実績に基づく種類別組成を表 8 に示します。

表 8 スプレー缶・ライターの種類別組成（参考）

	スチール	アルミ	合計
スプレー缶・ライター	81.8%	18.2%	100.0%

ライターは含みません。

2) 単位体積重量

単位体積重量は、貴社にて設定願います。

空き缶

1) 種類別組成

参考として、過年度の搬出量実績に基づく種類別組成を表 9 に示します。

表 9 空き缶の種類別組成（参考）

	スチール缶	アルミ缶	合計
空き缶	53.7%	46.3%	100.0%

2) 単位体積重量

単位体積重量は、0.023t/m³とします。

ミックスペーパー

種類別組成及び単位体積重量は、貴社の経験に基づいて設定願います。

プラスチック資源

種類別組成及び単位体積重量は、貴社の経験に基づいて設定願います。

(4) 受入ヤード容量（参考）

受入ヤードの貯留容量は、それぞれの処理対象品目ごとに2日分とします。

表 10 処理対象品目別の受入貯留日数（参考）

処理対象品目	貯留日数
空きびん・生きびん	2日分
ペットボトル	2日分
スプレー缶・ライター	2日分
空き缶	2日分
ミックスペーパー	2日分
プラスチック資源	2日分

(5) 搬出物ヤード容量 (参考)

搬出物の貯留日数はそれぞれ以下のとおりとします。なお、搬出物の単位体積重量は、貴社の経験に基づいて設定願います。

表 11 搬出物の貯留日数 (参考)

品目	主な搬出物	貯留日数	参考 (現状の搬出頻度)
空きびん・生きびん	カレット (透明)	5 日分	6 ~ 8 回 / 月
	カレット (茶)	5 日分	4 ~ 6 回 / 月
	カレット (その他)	15 日分	2 ~ 3 回 / 月
ペットボトル	汚れたペットボトル	3 日分	2 回 / 週
	フレーク	2 日分	9 ~ 11 回 / 月
	ベール品	5 日分	-
スプレー缶・ライター	スプレー缶	15 日分	鉄 : 2 回 / 月 アルミ : 1 ~ 2 回 / 月
空き缶	スチール缶成形品	5 日分	-
	アルミ缶成形品	5 日分	-
ミックスペーパー	ベール品	5 日分	-
プラスチック資源	ベール品	5 日分	-

5 車両基地、管理棟等の概要仕様書

(1) 車両基地

車両基地を利用する車両の車種及び台数は、表 12 のとおりである。

表 12 車両基地を利用する車両の車種及び台数

車種	種別	台数(台)
厨芥車(パッカー車)	小型	9
	中型	23
	大型	12
低床車	小型	5
	中型	11
軽トラック		4
軽自動車		1
軽バン		1
キャラバン		1
合計		67

(2) 管理棟

管理棟諸室は、日常動線、居住性、見学者対応等を考慮して配置することとします。なお、管理棟は単独(他の施設とは別棟)で整備することを基本とします。

本施設に常駐する市職員数は、20人を想定します。また、収集運搬部門の職員80人の控室を備えてください。

(3) 計量棟

ごみ計量機は、進入2基、退出1基とします。

(4) 構内駐車場

構内駐車場として、従業員駐車場、一般来場者用駐車場、市職員用駐車場を設けることとします。各駐車場の必要台数は、概ね次のとおりとします。

- ・従業員駐車場(乗用車) : 従業員の必要台数
- ・一般来場者用・市職員用駐車場(乗用車) : 50台程度

6 公害防止基準値

(1) 騒音基準値

敷地境界における騒音基準値は、表 13 のとおりとします。

表 13 騒音基準値

項目		基準値
昼間	8 時～19 時	60 dB
朝夕	6 時～8 時、19 時～22 時	55 dB
夜間	22 時～翌日 6 時	50 dB

(2) 振動基準値

敷地境界における振動基準値は、表 14 のとおりとします。

表 14 振動基準値

項目		基準値
昼間	7 時～20 時	65 dB
夜間	20 時～翌日 7 時	60 dB

(3) 悪臭基準値

敷地境界における基準値

敷地境界における悪臭基準値は、臭気指数 18 以下とします。

気体排出口における基準値

気体排出口の悪臭基準値については、悪臭防止法施行規則（昭和 47 年総理府令第 39 号）第 6 条の 2 に定める方法により算出して得た値とします。

排水水における基準値

排水水の悪臭基準値については、臭気指数 34 以下とします。

7 全体配置計画及び動線計画の基本的な考え方

(1) 全体配置計画の基本的な考え方

各施設の配置については、日常の車両や職員の動線を考慮して合理的に配置するとともに、定期整備の際に必要なスペースや、機器の搬入手段にも配慮することとします。

居室部分は、機能・居住性を十分考慮するとともに、明るく清潔なイメージとし、採光、バリアフリーを考慮して計画することとします。

定期点検整備、補修工事等の期間中に仮設事務所を設置できるスペースを確保することとします。

不燃ごみ処理施設及び資源ごみ処理施設の合棟又は別棟については、貴社の提案とします。

ごみ収集車等の車両は、敷地北側に隣接する道路から搬出入する予定です。ごみ搬入が集中する時間帯において、搬入車両の渋滞によって、隣接道路に影響を及ぼす事態を避けるため、車両出入口から進入時のごみ計量機までの待機長を十分に確保するものとします。

(2) 動線計画の基本的な考え方

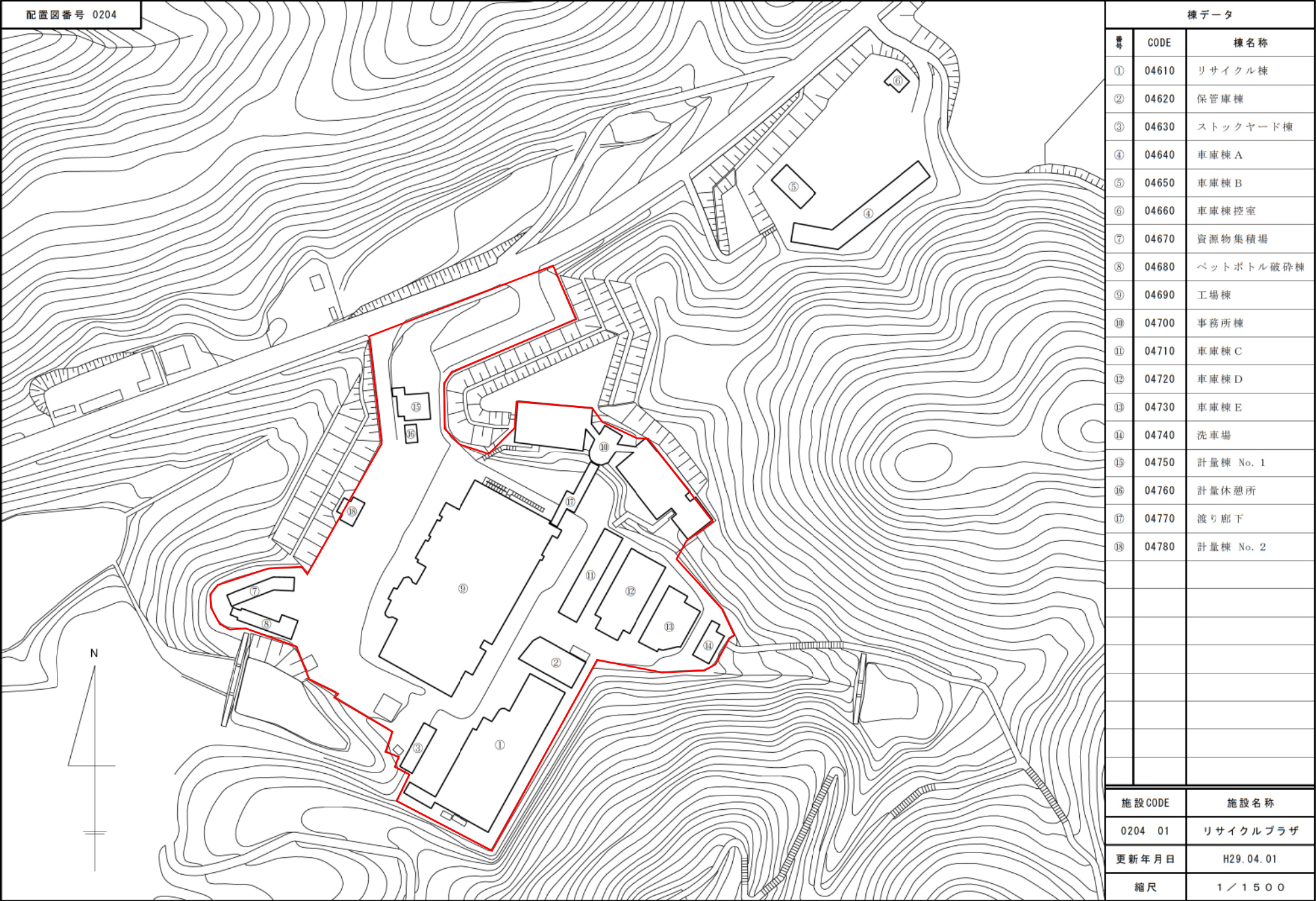
車両動線は、一方通行とし、可能な限り交差しないようにします。

車両動線は、ごみ収集車、直接搬入車、副生成物搬出車、メンテナンス車、一般車等の5種類に区分してください。

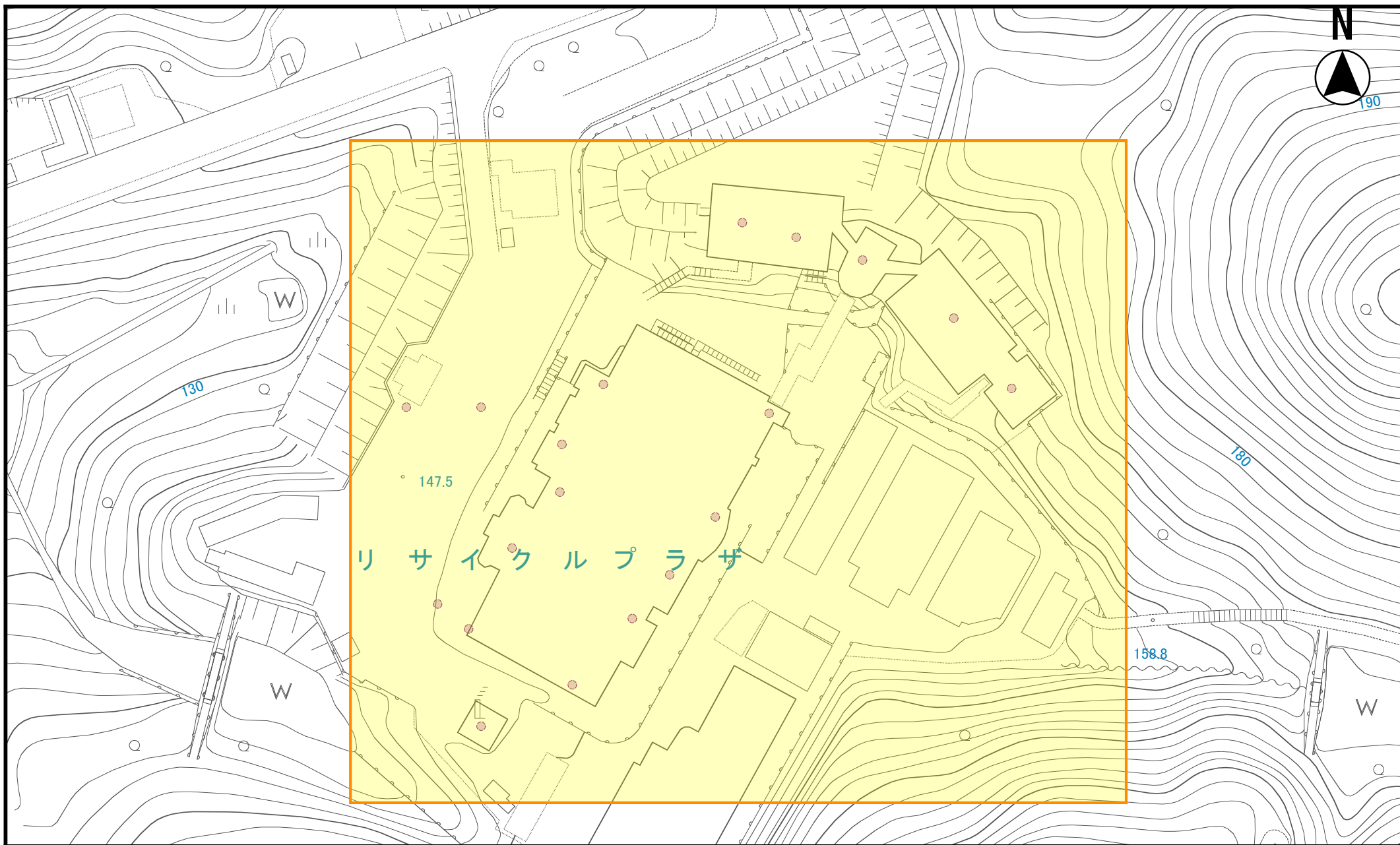
8 その他

- ・新リサイクル施設・剪定枝処理施設・生ごみ処理施設の整備、旧焼却施設解体工事に当たっては、循環型社会形成推進交付金を活用するものとします。
- ・参考として、才栗町の廃棄物再生利用施設（資源化施設）における現行の作業人員数を添付資料3「現行の作業人員数」に示します。

- 以上 -



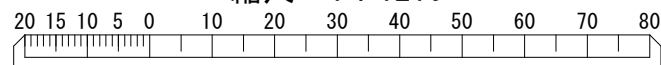
 事業敷地



2021年09月08日 9時10分26秒

yamashita.daisuke

縮尺 1 : 1210



・この地図は参考図であり、内容を証明するものではありません。
図形情報の時点、精度についてご確認の上ご利用ください。

ボーリング柱状図

調 査 名 新焼却場地質調査業務

ボーリングNo.									
----------	--	--	--	--	--	--	--	--	--

事業・工事名

シートNo. _____

ボーリング名	NO.1		調査位置		岡崎市高降寺地内						北 緯			
発 注 機 関						調査期間		昭和61年5月7日～61年5月8日				東 経		
調査業者名	玉野総合コンサルタン株式会社			主任技師		現 場 代理人		コ ア 鑑定者		ボーリング責任者				
孔口標高	+160.49m	角		方		地盤 勾配		使用 機種	試 錐 機	ハンマー 落下用具				
総掘進長	20.00m	度		向					エンジン	ポン プ				

[illegible]

ボーリングNo.							
----------	--	--	--	--	--	--	--

シートNo

ボーリング名	NO.2		調査位置		岡崎市高降寺地内						北 緯		シートNo.			
発 注 機 関					調査期間		昭和61年5月9日～61年5月10日						東 経			
調査業者名	玉野総合コンサルタン株式会社			主任技師		現 場 代理人		コ ア 鑑定者				ボーリン グ責任者				
孔口標高	+161.05m		角			方	地盤勾配		水平 0°		使用機種	試 錐 機		ハンマー 落下用具		
総掘進長	21.00m		度			向	鉛直 90°					エンジン		ポ ン プ		

[illegible]

[illegible]

シートNo

[illegible]

[illegible]

シートNo.

[illegible]

[illegible]

シートNo.

[illegible]

ボーリングNo.									
----------	--	--	--	--	--	--	--	--	--

シートNo. _____

標尺	標高	層厚	深度	柱状図	土質区分	色相対密度	相対稠度	記号	孔内水位m / 測定月日	標準貫入試験				原位置試験		試料採取			掘進月日			
										深 度 m	10cm毎の 打撃回数			打撃回数 / 貫入量 cm	N 値	深 度 m	試 験 名 および結果	深 度 m		試料 番号	採取 方法	室内試験 ()
											0 10	10 20	20 30									
1	140.06	1.80	1.80		シルト質中砂	緑灰	非常に緩い		8.20	1.15	1		1	35	1							
2	139.28	0.80	2.60		中砂	灰	緩い			2.15	1	2	3	6	6							
3					マサン	褐灰	非常に密な			3.15	30	20		50	60							
4	137.16	2.10	4.70		強風化花崗岩	褐灰				4.15	27	23		50	60							
5										4.33	8			18								
6										5.15	50			50	50							
7	134.66	2.50	7.20							5.23	8			8								
										6.15	50			50	50							
										6.19	4			4								
										7.20	50			50	50							
										7.20	0			0								

ボーリングNo.							
----------	--	--	--	--	--	--	--

シートNo

ボーリング名	NO.2		調査位置		岡崎市高降寺地内					北 緯		シートNo.
発 注 機 関					調査期間		昭和61年2月15日 ~ 61年2月19日				東 経	
調査業者名	玉野総合コンサルタン株式会社			主任技師		現 場 代理人		コ ア 鑑定者		ボーリン グ責任者		
孔口標高	+146.63m	角	上 180° 90° 下 0°	方 向		地盤 勾配	鉛直 0° 90°	使用 機種	試 錐 機	ハンマー 落下用具		
総掘進長	16.08m	度						エンジン	ポ ン プ			

標尺	標高	層厚	深度	柱状図	土質区分	色調	相對密度	記号	孔内水位m / 測定月日	標準貫入試験					原位置試験		試料採取			室内試験（月日）			
										深度	10cm毎の打撃回数		打撃回数／貫入量	N値 - ○ -	深度	試験名および結果	深度	試料番号	採取方法				
											0	10									20		
m	146.43	0.20	0.20		表土	茶灰				1.15 2	3	3	8										
1				マサB	暗黄褐	緩い				1.45 2			30										
2										2.15 2	3	3	8										
3										2.45 3			30										
4										3.15 3	4	4	11										
5										3.45 4			30										
6				4.15 4	4	6	14			4.45 11	13	16	40										
7	141.63	4.80	5.00	マサA	暗黄褐	非常に密な				5.15 11			30										
8										5.45 15	17	18	50										
9										6.15 6			30										
10										6.45 7			50										
11										7.00 27	23	5	50										
12	139.63	2.00	7.00	強風化花崗岩	黄褐					7.15 16	25	9	50										
13										8.00 8			22										
14										8.22 18	32		50										
15										9.00 9			20										
16										9.20 10	50		50										
17										10.00 10	9		50										
18										11.00 11	50		50										
19										11.10 12			10										
20										12.00 12	50		50										
21										12.06 13	6		6										
22				13.00 13	50		50																
23				13.08 14	8		8																
24				14.00 14	50		50																
25				14.06 15	6		6																
26				15.00 15	50		50																
27				15.05 16	5		5																
28	130.55	9.08	16.05							16.00 16	50		50										
29										16.08 16	8		8										

ボーリングNo.

シートNo

ボーリング名	NO.3		調査位置		岡崎市高降寺地内						北 緯		シートNo.	
発 注 機 関					調査期間		昭和61年2月6日 ~ 61年2月7日						東 経	
調査業者名	玉野総合コンサルタン株式会社			主任技師		現 場 代理人		コ ア 鑑定者		ボーリン グ責任者				
孔口標高	+139.21m	角			方			地盤 勾配	使用 機種	試 錐 機		ハンマー 落下用具		
総掘進長	7.00m	度			向				エンジン			ポ ン プ		

標尺	層高	厚	深	柱状	土質	色相	対対	記	孔内水位m / 測定月日	標準貫入試験					原位置試験		試料採取		室内試験（掘進月日）		
										深	10cm毎の打撃回数			打撃回数 / 貫入量 cm	N 値 - 0 -	深	試験名 および結果	深		試料番号	採取方法
											0	10	20								
m	m	m	m	図	分	調	度	事		m				m		m					
	139.04	0.20	0.20		表土	暗褐灰				1.15			1								
1	137.41	1.60	1.80		砂混じりシルト	暗灰	非常に軟らかい		2.00	1.50	35	1	35	1							
2	136.41	1.00	2.80		砂礫	暗茶褐	中位の			2.15	8	9	10	27	27						
3										2.45	25	25	6	50	16						
4					マサ	茶褐	非常に密な			3.15	26	24	5	50	15						
5	134.31	2.10	4.90							4.15	26	24	5	50	15						
6					弱風化花崗岩	茶白灰				4.30	26	24	5	50	15						
	132.21	2.10	7.00							5.15	50	5	0	50	5						
										5.20	50	5	0	50	5						
										6.00	50	0	0	50	0						
										6.00	50	0	0	50	0						
										7.00	50	0	0	50	0						
										7.00	0	0	0	50	0						

ボーリング柱状図

ボーリングNo.									
----------	--	--	--	--	--	--	--	--	--

シートNo.

[illegible]

ボーリングNo.

シートNo

ボーリング名	NO.6		調査位置		岡崎市高降寺地内					北 緯		シートNo.
発 注 機 関					調査期間		昭和61年2月13日 ~ 61年2月15日				東 経	
調査業者名	玉野総合コンサルタン株式会社			主任技師		現 場 代理人		コ ア 鑑定者		ボーリン グ責任者		
孔口標高	+146.65m	角		方		地盤 勾配		使用 機種	試 錐 機	ハンマー 落下用具		
総掘進長	17.00m	度		向				エンジン	ポ ン プ			

標尺	標高	層厚	深度	柱状図	土質区分	色相対密度	相対稠度	記号	孔内水位m / 測定月日	標準貫入試験					原位置試験 深度m	試験名 および結果	試料採取			室内試験 ()	掘進 月日						
										深度 m	10cm毎の 打撃回数			打撃回数/ 貫入量 cm			N 値 - ○ -	深度 m	試験名 および結果			深度 m	試料 番号	採取 方法			
											0 10	10 20	20 30														
	146.48	0.20	0.20		粘土質砂	黄褐	緩い中位	事		1.15	2	2	4	8	8	○											
1										1.45						2.15	3	4	5	12	30	○					
2										2.45						3.15	3	3	4	10	30	○					
3										3.45						4.15	4	6	6	16	30	○					
4	142.95	3.50	3.70							4.45						5.15	9	13	14	36	30	○					
5										5.45						6.15	11	16	20	47	30	○					
6										6.45						7.15	11	13	15	39	30	○					
7										7.45						8.15	9	13	15	37	30	○					
8										8.45						9.15	14	20	16	50	25	○					
9										9.40						10.15	27	23	9	50	19	○					
10	136.85	6.10	9.85	10.34						11.15	26	24	7	50	17	○											
11				11.32						12.15	26	24	7	50	17	○											
12				12.32						13.15	27	23	4	50	14	○											
13				13.29						14.00	50	0	0	50	0	○											
14	132.85	4.00	13.85	14.00						15.00	50	0	0	50	0	○											
15				15.00						16.00	50	0	0	50	0	○											
16				16.00						17.00	50	0	0	50	0	○											
	129.65	3.20	17.05	17.00																							

ボーリング柱状図

[illegible]

シートNo

ボーリング名	NO. 7		調査位置		岡崎市高降寺地内					北 緯		シートNo.
発 注 機 関					調査期間		昭和61年2月10日 ~ 61年2月12日				東 経	
調査業者名	玉野総合コンサルタン株式会社			主任技師		現 場 代理人		コ ア 鑑定者		ボーリン グ責任者		
孔口標高	+136.25m	角		方	北 0° 東 90° 南 180° 西 270°	地盤 勾配		使用 機種	試 錐 機	ハンマー 落下用具		
総掘進長	11.00m	度		向				エンジン	ポ ン プ			

標尺	標高	層厚	深度	柱状図	土質区分	色相対密度	相対稠度	記載事項	孔内水位m / 測定月日	標準貫入試験					原位置試験		試料採取			室内試験（掘進月日）	
										深度 m	10cm毎の打撃回数			打撃回数／貫入量 cm	N 値 - ○ -	深度 m	試験名 および結果	深度 m	試料番号		採取方法
											0 10	10 20	20 30								
1	134.55	1.70	1.70		礫混じり砂	淡黄灰	中位			1.15	4	5	5	14	30	14	○				
2					中位な黄褐灰	黄褐灰	中位な			1.45											
3					中位な黄褐灰	黄褐灰	中位な			2.15	9	10	11	30	30	30	○				
4					中位な黄褐灰	黄褐灰	中位な			2.45											
5	130.95	3.60	5.30		強風化花崗岩	褐灰				3.15	9	13	17	39	30	39	○				
6					強風化花崗岩	褐灰				3.45											
7					強風化花崗岩	褐灰				4.15	22	28		50	50	50	○				
8					強風化花崗岩	褐灰				4.34			9	19	19		○				
9	127.35	3.60	8.90		中風化花崗岩	褐灰				5.15	50			50	50	50	○				
10	125.25	2.10	11.05		中風化花崗岩	褐灰				5.22	7			7	7		○				
										6.15	50			50	50	50	○				
										6.23	8			8	8		○				
										7.15	50			50	50	50	○				
										7.20	5			5	5		○				
										8.15	50			50	50	50	○				
										8.32	17			17	17		○				
										9.15	50			50	50	50	○				
										9.19	4			4	4		○				
										10.00	50			50	50	50	○				
										10.00	0			0	0		○				
										11.00	50			50	50	50	○				
										11.00	0			0	0		○				

ボーリング柱状図

ボーリングNo.									
----------	--	--	--	--	--	--	--	--	--

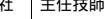
シートNo. _____

標尺	層高	厚	度	柱状図	土質区分	色相対称密度	相対稠度	記事	孔内水位m / 測定月日	標準貫入試験						原位置試験		試料採取			掘進 月日	
										深 度 m	10cm毎の 打撃回数			打撃回数／貫入量 cm	N 値 - - -	深 度 m	試 験 名 および結果	深 度 m	試料番号	採取方法		室内試験（ ）
											0 10	10 20	20 30									
1	134.73	1.60	1.60		盛土・シルト質砂	茶灰	中位			1.15 3	2	6	11	11			-					
2					強風化花崗岩	波灰～褐灰～白灰				2.05 50			50	50			-					
3										2.14 9												
4										3.00 50			50	50			-					
										3.04 4				4								
5	131.53	3.20	4.80		弱風化花崗岩	淡褐				4.00 50			50	50			-					
										4.07 7				7								
	130.83	0.70	5.50		弱風化花崗岩					5.00 50			50	50			-					
										5.00 0				0								

ボーリング柱状図

[illegible]

シートNo

ボーリング名	NO.9		調査位置		岡崎市高降寺地内					北 緯		シートNo.
発 注 機 関					調査期間		昭和61年2月12日 ~ 61年2月14日				東 経	
調査業者名	玉野総合コンサルタン株式会社			主任技師		現 場 代理人		コ ア 鑑定者		ボーリン グ責任者		
孔口標高	+150.79m	角	上 180° 90° 下 0°	方 向		地盤 勾配	鉛直 0° 90°	使用 機種	試 錐 機	ハンマー 落下用具		
総掘進長	13.04m	度						エンジン	ポ ン プ			

[illegible]

ボーリング柱状図

[illegible]

シートNo. _____

[illegible]

ボーリング柱状図

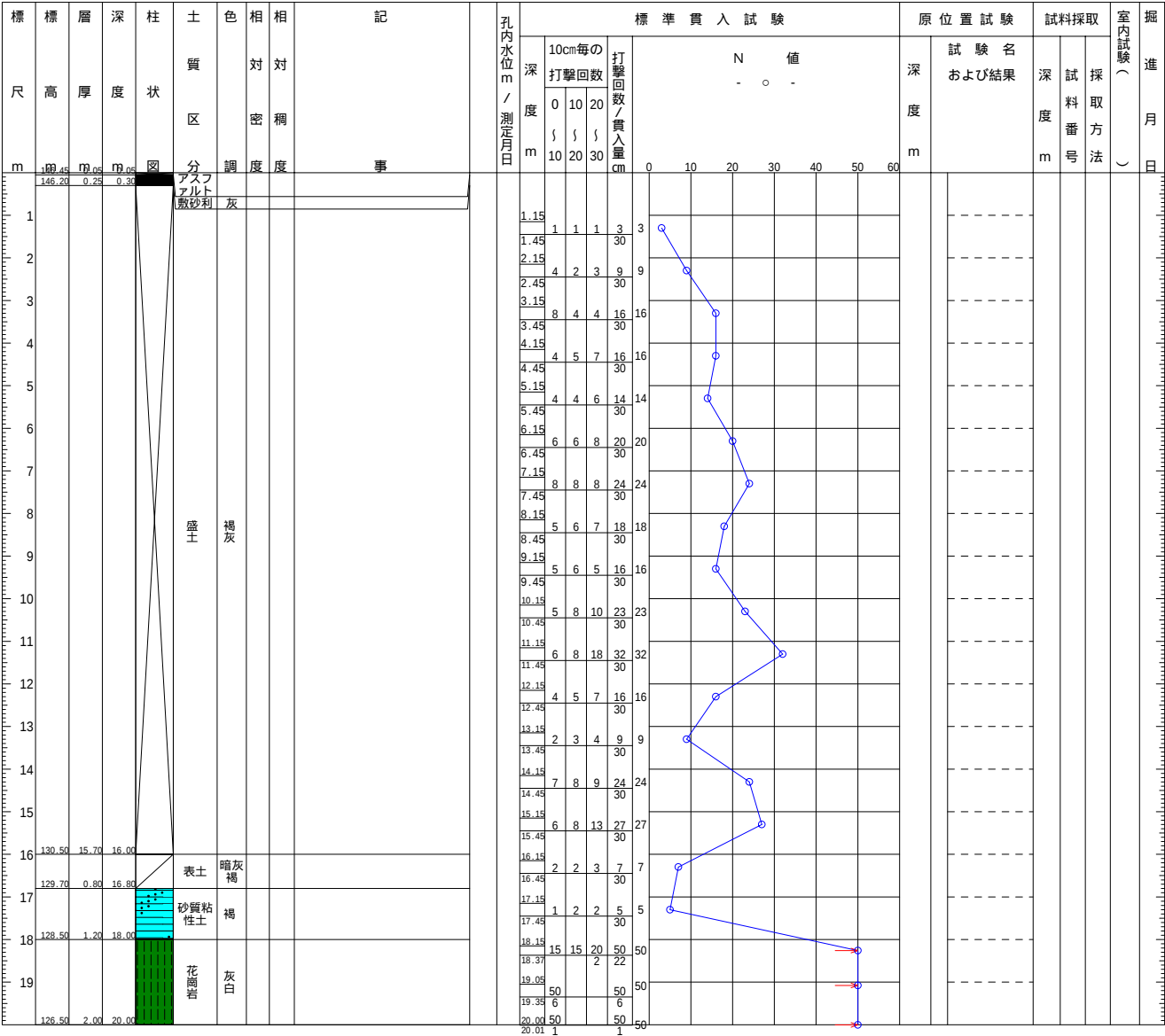
調 査 名

ボーリングNo.

事業・工事名 岡崎市中央クリーンセンター場内トラックスケール設計業務

シートNo.

ボーリング名	3-1		調査位置		岡崎市高降寺町地内					北 緯			
発 注 機 関	愛知県岡崎市					調査期間		平成7年3月15日～7年3月18日			東 経		
調査業者名	日本工営株式会社 電話(052-453-2900)			主任技師		現 場 代理人		コ ア 鑑定者		ボーリン グ責任者			
孔口標高	+146.50m	角 度		方 向		地盤勾配		使用機種	試 錐 機	D O - C		ハンマー 落下用具	
総掘進長	20.00m							エンジン	ヤンマーホープF	ポ ン プ	L - 3 3		



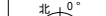
ボーリングNo.									
----------	--	--	--	--	--	--	--	--	--

シートNo

標尺	標高	層厚	深度	柱状図	土質区分	色相対密度	相対稠度	記号	孔内水位m / 測定月日	標準貫入試験					原位置試験		試料採取			室内試験()	掘進月日					
										深度 m	10cm毎の打撃回数			打撃回数/貫入量 cm	N 値 - ○ -	深度 m	試験名 および結果	深度 m	試料番号			採取方法				
											0	10	20													
m	m	m	m	図	分	調	度	度	事																	
1					盛土・礫混じり砂	暗黄褐	緩い 中位			1.15	2	3	3	8												
2										1.45				30							2.00	2.00	孔内水平載荷試験			
3										2.15	3	3	3	9												
4										2.45				30												
5										3.15	2	3	3	8												
6										3.45				30												
7										4.15	2	2	2	6												
8	156.69	7.80	7.80											4.45												
9					礫混じりシルト質砂	黄灰	緩い			5.15	3	4	3	10												
10	154.49	2.20	10.00							5.45				30												
11	153.89	0.60	10.60							6.15	4	5	7	16												
12					強風化花崗岩	黄灰	中位			6.45				30												
13										7.15	3	3	3	9												
14										7.45				30												
15										8.15	5	2	1	8												
16										8.45				30												
17										9.15	2	2	2	6												
18										9.45				30												
19	145.99	7.90	18.50							10.15	6	7	8	21												
20	144.49	1.50	20.00							10.45				30												
21										11.15	13	14	16	43												
22				11.45				30																		
23				12.15	20	25	15	60																		
24				12.40			5	25																		
25				13.15	49	11		60																		
26				13.27		2		12																		
27				14.00	60			60																		
28				14.10				10																		
29				15.00	60			60																		
30				15.06	6			60																		
31				16.00	60			60																		
32				16.05	5			5																		
33				17.00	60			60																		
34				17.06	6			60																		
35				18.00	60			60																		
36				18.06	6			60																		
37				19.00	60			60																		
38				19.00	0			60																		
39				20.00	60			60																		
40				20.00	0			60																		

[illegible]

シートNo

ボーリング名	NO.2		調査位置		岡崎市高降寺町地内						北 緯		シートNo.					
発 注 機 関	愛知県岡崎市					調査期間		平成4年6月4日 ~ 4年6月8日					東 経					
調査業者名	株式会社キンキ地質センター				主任技師		現 場 代理人		コ ア 鑑定者		ボーリン グ責任者							
孔口標高	+164.52m		角	上 180° 90° 下 0°		方			地盤 勾配	鉛直 90° 水平 0°		使用 機種	試 錐 機		K R -100		ハンマー 落下用具	
総掘進長	15.00m		度			向							エンジン		ポ ン プ			

[illegible]

不燃ごみ、空きびん・生きびん、スプレー缶・ライター、ペットボトルの
選別等に係る現行の作業人員数

品目	処理方法	役割	人員数
不燃ごみ	手選別	運転手	4 人
		選別作業員等	8 人
		ダンプ運転手	1 人
		小計	13 人
空きびん・生きびん	手選別	選別作業員等	6 人
		リフト運転手	1 人
		小計	7 人
スプレー缶・ライター	手選別・穴あけ	作業員等	3 人
ペットボトル	手選別	選別作業員等	7 人
		運転手	1 人
		小計	8 人
その他		管理者・指導員	3 人

資料 2 岡崎市新リサイクル施設整備事業に係る技術調査 回答資料集計

【各社回答集計(設計・建設費)】

処理対象品目	処理方法		概要	設計・建設費				
				A社	B社	C社	最大	最小
				(千円)	(千円)	(千円)	(千円)	(千円)
不燃ごみ	ケース1	新リサイクル施設 (手選別)	新リサイクル施設において、手選別を行う。選別後の金属類は売却。可燃残渣は熔融処理、不燃残渣は埋立。	—	950,000	—	950,000	950,000
	ケース2	新リサイクル施設 (前処理＋機械選別)	新リサイクル施設において、前処理＋機械選別を行う。選別後の金属類は売却。可燃残渣は熔融処理、不燃残渣は埋立。	3,500,000	3,950,000	—	3,950,000	3,500,000
生きびん・空きびん	ケース1	新リサイクル施設 (手選別)	新リサイクル施設において、手選別を行う。選別後の空きびんは容リルート。生きびんは売却。	500,000	400,000	—	500,000	400,000
	ケース2	新リサイクル施設 (前処理＋機械選別)	新リサイクル施設において、前処理＋機械選別を行う。選別後の空きびんは容リルート。生きびんは売却。	700,000	750,000	—	750,000	700,000
ペットボトル	ケース1	新リサイクル施設(前処理＋破碎)＋ 民間(ベール梱包)	新リサイクル施設において、きれいなペットと汚れたペットに選別し、きれいなペットは破碎を行う。フレークは売却。汚れたペットボトルは民間事業者でベール化し、容リルートで引取り。	—	—	—	0	0
	ケース2	新リサイクル施設 (前処理＋ベール梱包)	新リサイクル施設において、前処理とベール梱包を行う。ベールは容リルートで引取り。	800,000	550,000	—	800,000	550,000
スプレー缶・ライター	ケース1	新リサイクル施設(手選別＋スプレー穴あけ)	新リサイクル施設において、スプレー缶とライターに選別。選別後のスプレー缶は穴あけを行い売却。	150,000	60,000	—	150,000	60,000
空き缶	ケース1	新リサイクル施設 (機械選別＋圧縮)	新リサイクル施設において、機械選別＋圧縮を行う。選別後の空き缶は売却。	600,000	380,000	—	600,000	380,000
ミックスペーパー (紙製容器包装、その他紙)	ケース1	新リサイクル施設 (前処理＋ベール梱包)	新リサイクル施設において、前処理＋ベール梱包を行う。	700,000	480,000	—	700,000	480,000
プラスチック資源 (容器包装プラスチック、製品プラスチック)	ケース1	新リサイクル施設 (前処理＋ベール梱包)	新リサイクル施設において、前処理＋ベール梱包を行う。	1,100,000	640,000	—	1,100,000	640,000

※未回答の項目は「—」としている。なお、C社については、処理対象品目別の費用は未回答のため「—」としている。

【各社回答集計(必要人員数)】

処理対象品目	処理方法		概要	運営費(必要人員数)				
				A社	B社	C社	最大	最小
				(人／年)	(人／年)	(人／年)	(人／年)	(人／年)
不燃ごみ	ケース1	新リサイクル施設 (手選別)	新リサイクル施設において、手選別を行う。選別後の金属類は売却。可燃残渣は熔融処理、不燃残渣は埋立。	実績なし不明	18	20	20	18
	ケース2	新リサイクル施設 (前処理＋機械選別)	新リサイクル施設において、前処理＋機械選別を行う。選別後の金属類は売却。可燃残渣は熔融処理、不燃残渣は埋立。		11	15	15	11
生きびん・空きびん	ケース1	新リサイクル施設 (手選別)	新リサイクル施設において、手選別を行う。選別後の空きびんは容リルート。生きびんは売却。	7	8	16	16	7
	ケース2	新リサイクル施設 (前処理＋機械選別)	新リサイクル施設において、前処理＋機械選別を行う。選別後の空きびんは容リルート。生きびんは売却。	4	7	17	17	4
ペットボトル	ケース1	新リサイクル施設(前処理＋破碎)＋ 民間(ベール梱包)	新リサイクル施設において、きれいなペットと汚れたペットに選別し、きれいなペットは破碎を行う。フレークは売却。汚れたペットボトルは民間事業者でベール化し、容リルートで引取り。	実績なし不明	—	17	17	17
	ケース2	新リサイクル施設 (前処理＋ベール梱包)	新リサイクル施設において、前処理とベール梱包を行う。ベールは容リルートで引取り。		11	16	16	10
スプレー缶・ライター	ケース1	新リサイクル施設(手選別＋スプレー穴あけ)	新リサイクル施設において、スプレー缶とライターに選別。選別後のスプレー缶は穴あけを行い売却。	1	1	10	10	1
空き缶	ケース1	新リサイクル施設 (機械選別＋圧縮)	新リサイクル施設において、機械選別＋圧縮を行う。選別後の空き缶は売却。	3	6	13	13	3
ミックスペーパー (紙製容器包装、その他紙)	ケース1	新リサイクル施設 (前処理＋ベール梱包)	新リサイクル施設において、前処理＋ベール梱包を行う。	8	6	13	13	6
プラスチック資源 (容器包装プラスチック、製品プラスチック)	ケース1	新リサイクル施設 (前処理＋ベール梱包)	新リサイクル施設において、前処理＋ベール梱包を行う。	22	17	25	25	17

※未回答の項目は「—」としている。

【各社回答集計(需用費)】

処理対象品目	処理方法		概要	運営費(需用費)				
				A社	B社	C社	最大	最小
				(千円/年)	(千円/年)	(千円/年)	(千円/年)	(千円/年)
不燃ごみ	ケース1	新リサイクル施設 (手選別)	新リサイクル施設において、手選別を行う。選別後の金属類は売却。可燃残渣は熔融処理、不燃残渣は埋立。	実績なし不明	4,100	—	4,100	4,100
	ケース2	新リサイクル施設 (前処理+機械選別)	新リサイクル施設において、前処理+機械選別を行う。選別後の金属類は売却。可燃残渣は熔融処理、不燃残渣は埋立。	30,000	23,400	—	30,000	23,400
生きびん・空きびん	ケース1	新リサイクル施設 (手選別)	新リサイクル施設において、手選別を行う。選別後の空きびんは容リルート。生きびんは売却。	20,000	1,650	—	20,000	1,650
	ケース2	新リサイクル施設 (前処理+機械選別)	新リサイクル施設において、前処理+機械選別を行う。選別後の空きびんは容リルート。生きびんは売却。	20,000	5,650	—	20,000	5,650
ペットボトル	ケース1	新リサイクル施設(前処理+破碎)+ 民間(ベール梱包)	新リサイクル施設において、きれいなペットと汚れたペットに選別し、きれいなペットは破碎を行う。フレークは売却。汚れたペットボトルは民間事業者でベール化し、容リルートで引取り。	実績なし不明	—	—	0	0
	ケース2	新リサイクル施設 (前処理+ベール梱包)	新リサイクル施設において、前処理とベール梱包を行う。ベールは容リルートで引取り。	30,000	4,600	—	30,000	4,600
スプレー缶・ライター	ケース1	新リサイクル施設(手選別+スプレー穴あけ)	新リサイクル施設において、スプレー缶とライターに選別。選別後のスプレー缶は穴あけを行い売却。	3,000	210	—	3,000	210
空き缶	ケース1	新リサイクル施設 (機械選別+圧縮)	新リサイクル施設において、機械選別+圧縮を行う。選別後の空き缶は売却。	30,000	1,950	—	30,000	1,950
ミックスペーパー (紙製容器包装、その他紙)	ケース1	新リサイクル施設 (前処理+ベール梱包)	新リサイクル施設において、前処理+ベール梱包を行う。	30,000	8,700	—	30,000	8,700
プラスチック資源 (容器包装プラスチック、製品プラスチック)	ケース1	新リサイクル施設 (前処理+ベール梱包)	新リサイクル施設において、前処理+ベール梱包を行う。	30,000	8,000	—	30,000	8,000

※未回答の項目は「—」としている。なお、C社については、処理対象品目別の費用は未回答のため「—」としている。

【各社回答集計(保守管理・修繕更新費)】

処理対象品目	処理方法		概要	運営費(保守管理・修繕更新費)				
				A社	B社	C社	最大	最小
				(千円/年)	(千円/年)	(千円/年)	(千円/年)	(千円/年)
不燃ごみ	ケース1	新リサイクル施設 (手選別)	新リサイクル施設において、手選別を行う。選別後の金属類は売却。可燃残渣は熔融処理、不燃残渣は埋立。	実績なし不明	4,000	20,000	20,000	4,000
	ケース2	新リサイクル施設 (前処理+機械選別)	新リサイクル施設において、前処理+機械選別を行う。選別後の金属類は売却。可燃残渣は熔融処理、不燃残渣は埋立。	150,000	40,000	50,000	150,000	40,000
生きびん・空きびん	ケース1	新リサイクル施設 (手選別)	新リサイクル施設において、手選別を行う。選別後の空きびんは容リルート。生きびんは売却。	30,000	3,000	—	30,000	3,000
	ケース2	新リサイクル施設 (前処理+機械選別)	新リサイクル施設において、前処理+機械選別を行う。選別後の空きびんは容リルート。生きびんは売却。	50,000	6,000	—	50,000	6,000
ペットボトル	ケース1	新リサイクル施設(前処理+破碎)+ 民間(ベール梱包)	新リサイクル施設において、きれいなペットと汚れたペットに選別し、きれいなペットは破碎を行う。フレークは売却。汚れたペットボトルは民間事業者でベール化し、容リルートで引取り。	実績なし不明	—	—	0	0
	ケース2	新リサイクル施設 (前処理+ベール梱包)	新リサイクル施設において、前処理とベール梱包を行う。ベールは容リルートで引取り。	50,000	3,500	—	50,000	3,500
スプレー缶・ライター	ケース1	新リサイクル施設(手選別+スプレー穴あけ)	新リサイクル施設において、スプレー缶とライターに選別。選別後のスプレー缶は穴あけを行い売却。	3,000	1,000	—	3,000	1,000
空き缶	ケース1	新リサイクル施設 (機械選別+圧縮)	新リサイクル施設において、機械選別+圧縮を行う。選別後の空き缶は売却。	50,000	3,000	—	50,000	3,000
ミックスペーパー (紙製容器包装、その他紙)	ケース1	新リサイクル施設 (前処理+ベール梱包)	新リサイクル施設において、前処理+ベール梱包を行う。	50,000	3,000	—	50,000	3,000
プラスチック資源 (容器包装プラスチック、製品プラスチック)	ケース1	新リサイクル施設 (前処理+ベール梱包)	新リサイクル施設において、前処理+ベール梱包を行う。	50,000	4,000	—	50,000	4,000

※未回答の項目は「—」としている。なお、C社については、不燃ごみ以外の処理対象品目別の費用は未回答のため「—」としている。

【プラントメーカー回答(A社)】

■各ケース別の費用(設計・建設費及び運営費)及び建築面積

項目名	内容
設計・建設費	施設の設計・建設に係る一切の費用
必要人員数	処理対象品目の処理に必要な必要人員数
運営費(需用費)	電気料、燃料費、水道料、薬剤費、消耗品費等
運営費(保守管理・修繕更新費)	法定点検、法定点検以外の保守点検に係る費用、設備の補修・更新に係る一切の費用

処理対象品目	処理方法		概要	項目							建屋の大きさ		
				設計・建設費	運営費				需用費	保守管理・ 修繕更新費	縦	横	建築面積
					必要人員数								
					受入対応員 (人／年)	選別作業員 (人／年)	重機運転員 (人／年)	その他 (人／年)					
			(千円)					(千円／年)	(千円／年)	(m)	(m)	(㎡)	
不燃ごみ	ケース1	新リサイクル施設 (手選別)	新リサイクル施設において、手選別を行う。選別後の金属類は売却。可燃残渣は溶融処理、不燃残渣は埋立。	実績なし不明									
	ケース2	新リサイクル施設 (前処理＋機械選別)	新リサイクル施設において、前処理＋機械選別を行う。選別後の金属類は売却。可燃残渣は溶融処理、不燃残渣は埋立。	3,500,000	2	4	3	2	30,000	150,000	50	60	3,000
生きびん・空きびん	ケース1	新リサイクル施設 (手選別)	新リサイクル施設において、手選別を行う。選別後の空きびんは容リルート。生きびんは売却。	500,000	兼任	6	1		20,000	30,000	30	30	900
	ケース2	新リサイクル施設 (前処理＋機械選別)	新リサイクル施設において、前処理＋機械選別を行う。選別後の空きびんは容リルート。生きびんは売却。	700,000	兼任	3	1		20,000	50,000	35	35	1,225
ペットボトル	ケース1	新リサイクル施設(前処理＋破砕)＋ 民間(ベール梱包)	新リサイクル施設において、きれいなペットと汚れたペットに選別し、きれいなペットは破砕を行う。フレークは売却。汚れたペットボトルは民間事業者でベール化し、容リルートで引取り。	実績なし不明									
	ケース2	新リサイクル施設 (前処理＋ベール梱包)	新リサイクル施設において、前処理とベール梱包を行う。ベールは容リルートで引取り。	800,000	兼任	8	3		30,000	50,000	35	35	1,225
スプレー缶・ライター	ケース1	新リサイクル施設(手選別＋スプレー穴あけ)	新リサイクル施設において、スプレー缶とライターに選別。選別後のスプレー缶は穴あけを行い売却。	150,000	1				3,000	3,000	10	10	100
空き缶	ケース1	新リサイクル施設 (機械選別＋圧縮)	新リサイクル施設において、機械選別＋圧縮を行う。選別後の空き缶は売却。	600,000	兼任	1	2		30,000	50,000	35	35	1,225
ミックスペーパー (紙製容器包装、その他紙)	ケース1	新リサイクル施設 (前処理＋ベール梱包)	新リサイクル施設において、前処理＋ベール梱包を行う。	700,000	兼任	6	2		30,000	50,000	35	35	1,225
プラスチック資源 (容器包装プラスチック、製品プラスチック)	ケース1	新リサイクル施設 (前処理＋ベール梱包)	新リサイクル施設において、前処理＋ベール梱包を行う。	1,100,000	兼任	18	4		30,000	50,000	40	40	1,600

※1:各ケース別の費用(設計・建設費及び運営費)及び建屋の大きさをご回答ください。なお、各ケースの処理フローについては、事業概要書をご参照ください。

※2:設計・建設費は、各ケース別の施設の設計・建設に係る費用をご回答ください。(既存施設の解体工事費は含めないでください。)

※3:需用費は、1年間当たりの費用をご回答願います。

※4:保守管理・修繕更新費については、本施設を20年程度使用することを前提として、1年間当たりに必要な費用を平準化してご回答ください。

※5:有価物の売却費用等は含まないでください。

【プラントメーカー回答(B社)】

■各ケース別の費用(設計・建設費及び運営費)及び建築面積

項目名	内容
設計・建設費	施設の設計・建設に係る一切の費用
必要人員数	処理対象品目の処理に必要な必要人員数
運営費(需用費)	電気料、燃料費、水道料、薬剤費、消耗品費等
運営費(保守管理・修繕更新費)	法定点検、法定点検以外の保守点検に係る費用、設備の補修・更新に係る一切の費用

処理対象品目	処理方法		概要	項目							建屋の大きさ		
				設計・建設費	運営費				需用費	保守管理・ 修繕更新費	縦	横	建築面積
					必要人員数								
					受入対応員 (人/年)	選別作業員 (人/年)	重機運転員 (人/年)	その他 (人/年)					
(千円)	(千円/年)	(千円/年)	(千円/年)	(千円/年)	(千円/年)	(m)	(m)	(㎡)					
不燃ごみ	ケース1	新リサイクル施設 (手選別)	新リサイクル施設において、手選別を行う。選別後の金属類は売却。可燃残渣は溶融処理、不燃残渣は埋立。	950,000	2	12	2	2	4,100	4,000			1,500
	ケース2	新リサイクル施設 (前処理＋機械選別)	新リサイクル施設において、前処理＋機械選別を行う。選別後の金属類は売却。可燃残渣は溶融処理、不燃残渣は埋立。	3,950,000	2	6	1	3	23,400	40,000			2,000
生きびん・空きびん	ケース1	新リサイクル施設 (手選別)	新リサイクル施設において、手選別を行う。選別後の空きびんは容リルート。生きびんは売却。	400,000	1	4	1	2	1,650	3,000			400
	ケース2	新リサイクル施設 (前処理＋機械選別)	新リサイクル施設において、前処理＋機械選別を行う。選別後の空きびんは容リルート。生きびんは売却。	750,000	2	2	1	2	5,650	6,000			600
ペットボトル	ケース1	新リサイクル施設(前処理＋破砕)＋ 民間(ペール梱包)	新リサイクル施設において、きれいなペットと汚れたペットに選別し、きれいなペットは破砕を行う。フレークは売却。汚れたペットボトルは民間事業者でペール化し、容リルートで引取り。	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	ケース2	新リサイクル施設 (前処理＋ペール梱包)	新リサイクル施設において、前処理とペール梱包を行う。ペールは容リルートで引取り。	550,000	1	6	1	2	4,600	3,500			650
スプレー缶・ライター	ケース1	新リサイクル施設(手選別＋スプレー穴あけ)	新リサイクル施設において、スプレー缶とライターに選別。選別後のスプレー缶は穴あけを行い売却。	60,000		1			210	1,000			50
空き缶	ケース1	新リサイクル施設 (機械選別＋圧縮)	新リサイクル施設において、機械選別＋圧縮を行う。選別後の空き缶は売却。	380,000	1	2	2	1	1,950	3,000			350
ミックスペーパー (紙製容器包装、その他紙)	ケース1	新リサイクル施設 (前処理＋ペール梱包)	新リサイクル施設において、前処理＋ペール梱包を行う。	480,000	1	2	2	1	8,700	3,000			400
プラスチック資源 (容器包装プラスチック、製品プラスチック)	ケース1	新リサイクル施設 (前処理＋ペール梱包)	新リサイクル施設において、前処理＋ペール梱包を行う。	640,000	1	12	2	2	8,000	4,000			680

※1:各ケース別の費用(設計・建設費及び運営費)及び建屋の大きさをご回答ください。なお、各ケースの処理フローについては、事業概要書をご参照ください。
※2:設計・建設費は、各ケース別の施設の設計・建設に係る費用をご回答ください。(既存施設の解体工事費は含めないでください。)
※3:需用費は、1年間当たりの費用をご回答願います。
※4:保守管理・修繕更新費については、本施設を20年程度使用することを前提として、1年間当たりに必要な費用を平準化してご回答ください。
※5:有価物の売却費用等は含まないでください。

【プラントメーカー回答(C社)】

■各ケース別の費用(設計・建設費及び運営費)及び建築面積

項目名	内容
設計・建設費	施設の設計・建設に係る一切の費用
必要人員数	処理対象品目の処理に必要な必要人員数
運営費(需用費)	電気料、燃料費、水道料、薬剤費、消耗品費等
運営費(保守管理・修繕更新費)	法定点検、法定点検以外の保守点検に係る費用、設備の補修・更新に係る一切の費用

処理対象品目	処理方法		概要	項目							建屋の大きさ		
				設計・建設費	運営費				需用費	保守管理・ 修繕更新費	縦	横	建築面積
					必要人員数								
					受入対応員 (人／年)	選別作業員 (人／年)	重機運転員 (人／年)	その他 (人／年)					
(千円)	(人／年)	(人／年)	(人／年)	(千円／年)	(千円／年)	(m)	(m)	(㎡)					
不燃ごみ・粗大ごみ・びん・ペット ボトル・スプレー缶・空き缶・ミックス ペーパー・プラスチック資源	ケース1	新リサイクル施設 (手選別)		9,000,000	8	43	5	9	50,000	56,500	粗大+資源棟 75 プラスチック処理棟 68	粗大+資源棟 60 プラスチック処理棟 30	粗大+資源棟 4,500 プラスチック処理棟 2,040 管理棟 1,800
	ケース2	新リサイクル施設 (前処理+機械選別)		11,000,000	3	47	5	8	55,000	93,000	粗大・不燃棟 73 資源棟 98	粗大・不燃棟 27 資源棟 70	粗大・不燃棟 1,971 資源棟 6,860 管理棟 1,800
不燃ごみ	ケース1	新リサイクル施設 (手選別)	新リサイクル施設において、手選別を行う。選別後の金属類は売却。可燃残渣は熔融処理、不燃残渣は埋立。	—	7	4	2	7	—	20,000	—	—	—
	ケース2	新リサイクル施設 (前処理+機械選別)	新リサイクル施設において、前処理+機械選別を行う。選別後の金属類は売却。可燃残渣は熔融処理、不燃残渣は埋立。	—	2	6	1	6	—	50,000	—	—	—
びん・ペットボトル・スプレー缶・ 空き缶・ミックスペーパー・プラ スチック資源	ケース1	新リサイクル施設 (手選別)		—	2	39	3	9	—	50,000	—	—	—
	ケース2	新リサイクル施設 (前処理+機械選別)		—	2	41	3	7	—	58,000	—	—	—
生きびん・空きびん	ケース1	新リサイクル施設 (手選別)	新リサイクル施設において、手選別を行う。選別後の空きびんは 容リルート。生きびんは売却。	—	1	6	2	7	—	—	—	—	—
	ケース2	新リサイクル施設 (前処理+機械選別)	新リサイクル施設において、前処理+機械選別を行う。選別後の 空きびんは容リルート。生きびんは売却。	—	1	8	2	6	—	—	—	—	—
ペットボトル	ケース1	新リサイクル施設(前処理+破砕)+ 民間(ベール梱包)	新リサイクル施設において、きれいなペットと汚れたペットに選別 し、きれいなペットは破砕を行う。フレークは売却。汚れたペットボ トルは民間事業者でベール化し、容リルートで引取り。	—	1	7	2	7	—	—	—	—	—
	ケース2	新リサイクル施設 (前処理+ベール梱包)	新リサイクル施設において、前処理とベール梱包を行う。ベール は容リルートで引取り。	—	1	7	2	6	—	—	—	—	—
スプレー缶・ライター	ケース1	新リサイクル施設(手選別+スプレー穴あ け)	新リサイクル施設において、スプレー缶とライターに選別。選別後 のスプレー缶は穴あけを行い売却。	—	1	2		7	—	—	—	—	—
空き缶	ケース1	新リサイクル施設 (機械選別+圧縮)	新リサイクル施設において、機械選別+圧縮を行う。選別後の空 き缶は売却。	—	1	3	2	7	—	—	—	—	—
ミックスペーパー (紙製容器包装、その他紙)	ケース1	新リサイクル施設 (前処理+ベール梱包)	新リサイクル施設において、前処理+ベール梱包を行う。	—	1	3	2	7	—	—	—	—	—
プラスチック資源 (容器包装プラスチック、製品プラ スチック)	ケース1	新リサイクル施設 (前処理+ベール梱包)	新リサイクル施設において、前処理+ベール梱包を行う。	—	1	18	1	5	—	—	—	—	—

※1：各ケース別の費用(設計・建設費及び運営費)及び建屋の大きさをご回答ください。なお、各ケースの処理フローについては、事業概要書をご参照ください。

※2：設計・建設費は、各ケース別の施設の設計・建設に係る費用をご回答ください。(既存施設の解体工事費は含めないでください。)

※3：需用費は、1年間当たりの費用をご回答願います。

※4：保守管理・修繕更新費については、本施設を20年程度使用することを前提として、1年間当たりに必要な費用を平準化してご回答ください。

※5：有価物の売却費用等は含まないでください。